
悪夢

酸性雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪夢

【Nコード】

N5145B

【作者名】

酸性雨

【あらすじ】

よくあるホラー短篇です。深夜のコンビニ。トロい店員に苛立つ主人公。不気味な予言。そして…

私は久しぶりに夢を見た。

話によると毎日見てはいるそうだが…記憶があつたのは何年ぶりだろう。

しかもとてつもない悪夢だった。

…コンビニに寄っていた。

買うものはいつも通り。

ポテチとゼリーとコーヒーとフライドチキン。

やけに苛々する店員だ。

リストラでもされたのか？

50過ぎ程。白髪が半分の頭に冴えない顔。

動きもとろい。

やけに言葉をどもる。私が会社を経営して人員削減するなら真っ先に切るだろう。

愛想もない。

たかがレジ打って袋につめるのに一分もかかった。

他に客もいない。

そして何故か妙に苛々していた。

「アンタね、そのどん臭い動き改めないとどこいってもやってけないよ」

怒鳴って荒く袋を掴んでコンビニを出ようとする。

「あつ、お、客…さん」

店員が追い掛けてくる。動きはとろいが。謝るつもりか？一応足を止めた。

「黒い車に気をつけて」

やけにドスがきいてはつきりした言い方。

少し戸惑うが予想が外れて苛々していた。

「は？黒い車なんてどこにでも走ってるでしょ？つくづくすごいね。アンタ」

そう言つて私は大袈裟に戸を開けて出た。私は歩いた。無意識の中を歩いた。

道は体が覚えていて。

ふと…違和感に立ち止まった。

音が無い。

…音が無い。

予感。

自分の体から血が引いていくのを感じた。

目が会う。

車のライト。

何もかもおかまいなしで突っ込んでくる”黒い車”。

キヤアアアアア

それはタイヤの軋む音か。

私の悲鳴か。

…それとも…別の…

冷汗と共に目覚めた。

朝。

いつもの日常。

現実が始まる。

…いつものコンビニ。

ああ、苛々する。

この店員のノロい動き。

デジャヴが重なる。

…どこで見たんだろうか。

「ねえ、お客さん」

…店員が前の客に話し掛ける。

話なんてしないで早くすればいいのに。

「昨日、この近くで事故がありましたね」

前の客は時間があるのか、話を聞いていた。
ああ、苛々する。

「その被害者がほら……」

店員が私を指差す。

前の客は驚いた顔をして私を見ていた。

「……え……」

横のおにぎりの棚……の奥の鏡を見た。

そこには血まみれの女性が写っていた。

……それは、私だった。

（後書き）

作者ノンフィクションです（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5145b/>

悪夢

2010年12月30日02時27分発行